



みんなの「なんな-の?」を伝えるこども記者のための新聞(毎月1回発行)

信毎こども記者ニュース

発行/信毎こども記者クラブ(信濃毎日新聞地域活動部) 〒380-8546 長野市南県町657 TEL.026-236-3110 FAX.026-236-3193

no.21

♪信濃の国は〜で始まる長野県歌「信濃の国」。信毎こども記者クラブは、その中に出てくる諏訪湖の「いま」をレポートしようと、1月30日、写真教室で現地を訪ねました。とても寒い一日でした

が、信毎の増田今雄・写真記者にニュース写真の撮り方を教わりながら、諏訪湖畔を探検。諏訪湖博物館の宮坂徹館長や諏訪湖漁業協同組合、県水産試験場諏訪支場の人に取材しました。

たんけん「信濃の国」諏訪湖編



信濃の国 3番

諏訪湖には魚がたくさんいます

こども記者 諏訪湖を激写

撮影 → 記事を書いて → 現地で諏訪湖新聞発行!

諏訪湖博物館・赤彦記念館館長 宮坂徹さんからのメッセージ

「諏訪湖や、外から持ってきた魚の事など、新しく知っていただけたことがいくつかあったと思います。みなさんが諏訪湖に親しみきっかけになったらいいなあと思います。」



諏訪湖にしかけた網にかかった外来魚などを撮影するこども記者

諏訪湖のミニチュア模型を前に、宮坂徹館長が解説をしてくれたよ



信毎の大井記者が撮影した写真がこれ。教室の壁に、1月31日付新聞に載りました



教室にかけたな-のちゃん号で新聞を印刷したよ!

ここだけのヒミツ! ベテラン記者の失敗談



19年目 (記者31年目) 信毎松本本社報道部長 丸山貢一記者
ました。フラッシュが連動しなかったのかも。当時はフィルム。今のデジタルカメラのように撮りっぱなしで確認できません。本社の写真部に駆け込むと、ベテランの写真部長は言いました。「フラッシュが光らなければ、普通の現像では画像が浮かび上がらない。長時間、現像すれば何とかなる。でも、フラッシュが光っていればフィルムは真っ黒。おしまいだ。さあ、どうする」

みんな最初は一年生

長野中央署を担当した1年生の時、贈収賄事件がありました。「今夜、容疑者が逮捕される」という情報をつかみ、容疑者の写真を撮ろうと署内の廊下で張り込んでいました。蛍光灯が古い廊下の光はぼんやりしています。待つこと1時間。ドアが開き刑事に抱えられた容疑者が、他社はいません。「特ダネだ」。無我夢中でシャッターを押しました。ところが、どうもおかしい。フィルムから見える刑事がニヤリとしました。撮影チャンスは一瞬。シャッターを押したの1回か2回。不安が湧いてきた

あの時だけなぜフラッシュが連動しなかったのか、刑事の「ニヤリ」はどんな意味があったのか、今でも分かりません。

●増田記者が写真教室の日に諏訪湖で撮影したとっておきの1枚●



増田今雄記者 まつざんのベストショット!

写真教室が終わると、みなさんが取材した博物館とは反対の岡谷市側に行ってみました。外来魚と同じで、諏訪湖にいるワカサギを食べたままカワアイサという鳥の写真を撮るためです。そこは水が張ってなくて、鳥ははるか遠くの氷と氷の境で群れていました。1000羽以上もいるそうです。ただ、遠すぎて超望遠レンズ(1600mm。みんなのカメラの15~30倍ぐらい)でも小さくて新聞に載せるようないい写真が撮れませんでした。いつか、漁協の吉沢さんに頼んで、鳥を追い払うモーターボートに乗せてもらって近づいて撮りたいと思います。また紙面企画「変わる生態系」に登場するかも知れません。お楽しみに。(増田今雄記者)

【アップ=近づく】 【ルーズ=離れる】



いろいろな位置から撮ろう!

まつざんのフォトミニ講座